

新国立総工費1550億円 市民ら賛否 政府は「妥当」

2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の新たな整備計画が28日決まり、総工費の上限が1550億円に定められた。白紙に戻った旧整備計画に比べ総工費は約1千億円の下方修正となったが、市民からは金額の妥当性をめぐり賛否が交錯し、専門家からも「上限は本当に守れるのか」と不安視する声も上がった。

都知事が負担検討

「税金で造るので、(総工費は)安ければ安いに越したことはない。最初のデザインは格好良いと思ったけれど、金額があまりにも高すぎたからね」。東京都千代田区の日比谷公園でイベント待ちをしていた千葉県市川市の介護士、松田律子さん(65)はこう話し、政府の提示した上限額の1550億円に理解を示した。

一方、さいたま市の無職、内山健次さん(56)は「一気に1千億円以上も金額が下がり、安かろう悪かろうになるのではないかと懸念。9月から始まる施行業者の公募について、もうお金のことでめめめめて済むように、できるだけシンプルなスタジアムになればいい」と注文を付けた。旧整備計画を批判してきた東京都の舛添要一知事は同日の定例会見で、コスト

削減評価も「上限守れる？」

削減を評価した上で、「災害時の避難場所として、市民が自分の身を守るために使える施設であれば、一部を負担するという考えは成り立つ」と述べ、競技場の本体工事費についても負担を検討していく考えを示した。

資料で「理論武装」

「国民の皆さまに、十分に理解いたたけると思っている」。新整備計画が決定された関係閣僚会議後の会見で、遠藤利明五輪相は総工費の上限額の妥当性を繰り返し強調した。

会見では、その妥当性を「理論武装」する資料も配布された。国内外の既存スタジアムの建設費に対し、新国立と同じ延べ床面積、物価上昇分、為替レート変動などの諸要素を掛け合わせて補正し、コストを推計した比較表がそれだ。

例えば、国内最大の収容人数の日産スタジアム(約7万2千人)は実際の建設費603億円が1435億円に補正された。海外では、930億円と五輪スタジアムの中でも高額だった2012年ロンドン五輪のスタジアムは1474億円



※総工費は当時の為替レートで換算

と推計された。

「国内外のナショナルスタジアムの積算をみても同等の価格だ」。遠藤氏はこう強調したが、建設に反対する市民団体「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」の上村千寿子共同代

表(59)は「安くなったと強調されているが、各国のメーンスタジアムと比較すると、決して安いわけではない」と批判している。景観対策に課題別の不安要素もある。法政大の五十嵐敬喜名誉教授(公共事業論)は「批判を受けて表面上は体裁を整えたが、本当に1550億円の不安要素もある。実際の、旧整備計画の策定経緯を検証している文部科学省の第三者委員会では、総工費が1300億〜3千億円の間に乱高下した経緯が判明しており、今後は総工費の上限内での抑制対策が焦点となる。景観対策も課題だ。旧整備計画を批判してきた建築家の榎文彦氏は「(当初の)1300億円に近づけた努力は評価している」と話す一方、景観については「周辺地域と調和できるかどうかが重要だ」と指摘。「今回は公募者に模型の提出を義務付け、景観を確認するなどの工夫が必要だ」と提言した。(3、17面に関連記事)

原案提示「T」を強調

五輪エンブレム 組織委が選考説明

2020年東京五輪のエンブレムがベルギーの劇場ロゴと似ていると指摘されている問題で、大会組織委員会では28日、選考経過を説明した。作者の佐野研二郎氏の原案も示した上で「発想は全く違う」との認識を示し、類似性を否定した。組織委によると、エンブレムは昨年11月、104点の応募作品の中から審査委員8人が投票で4点まで絞り込み、最後は協議を経て佐野氏の原案に決めたとはい

う。一連の審査過程では、デザイナー名は一切伏せられていた。今回初めて公表された原案は、東京の「T」を強調したものらしい、日の丸を連想する赤い丸は右下に配置。組織委は、劇場の頭文字の「L」を想起させる形ではなかったと説明している。その後の商標調査で、若干の類似性があるものが見つかり、組織委からの依頼で佐野氏が修正を加え、最

最終的には、右上に赤い丸を配置するなどした形になったという。武藤敏郎事務総長は「異なる特徴がいくつもあって、オリジナルであると確信している」と強調。審査委員代表を務めたクラフィックデザイナーの永井一正氏も「発想、思想、造形、全てが違う」と劇場ロゴとの類似性を否定した。エンブレム問題では、劇場のロゴのデザイナー側が「盗用」疑惑を指摘し、14

日に国際オリンピック委員会(IOC)に使用差し止めを求めて提訴。一方、佐野氏は5日の記者会見で「全くの事実無根だ」と否定していた。「立場に変化はない」劇場ロゴデザイナー 大会組織委員会が盗用疑惑を否定したことについて、ベルギーの劇場ロゴのデザイナーは28日、差し止め訴訟を起こした自身らの立場に「変化はない」とした上で、「法的には(エンブレムを)撤回してほしいとの立場だが、解決策は類似がなくなるようなやり方でエンブレムを修正することだろう」と述べた。(共同)



④ベルギー・リエージュ劇場のロゴ(左)と2020年東京五輪の公式エンブレム ⑤モニターに映し出された佐野研二郎氏のエンブレム原案について説明する大会組織委員会の武藤敏郎事務総長(28日午後、東京都港区(鴨川一也撮影))

